

平成 28 年 6 月 14 日現在

機関番号：32305

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24593526

研究課題名 (和文) 日本語版「精神障がい者の内面化したスティグマ尺度」の信頼性と妥当性

研究課題名 (英文) The Internalized Stigma of Mental Illness (ISMI) scale: validation of the Japanese version

研究代表者

田邊 要補 (Tanabe, Yosuke)

高崎健康福祉大学・保健医療学部・准教授

研究者番号：50515319

交付決定額 (研究期間全体) : (直接経費) 3,300,000 円

研究成果の概要 (和文) : 精神障がい者の内面化したスティグマ尺度 (ISMI尺度) は、2003年にRitsherらによって作成されました。29項目からなる尺度で、精神に障がいのある人の内面化されたスティグマ (自己スティグマ) を測定することができます。内面化されたスティグマ測定で、最も一般的に用いられる測定の1つは、ISMI尺度であり、統合失調症、うつ病、ハンセン病、およびエイズの人などの内面化されたスティグマ尺度として世界中で多く使われています。この度、日本語版ISMI尺度については、田邊らによってその妥当性と信頼性が研究され、2016年にBMC Psychiatryに掲載されました。

研究成果の概要 (英文) : Ritsher et al. developed the Internalized Stigma of Mental Illness (ISMI) Scale to measure the internalized stigma (self stigma) of people with a mental illness in 2003. The ISMI scale is composed of 29 items. This scale is one of the most commonly used measures of internalized stigma. The ISMI scale has been used worldwide as a measure of internalized stigma for people with schizophrenia, depression, leprosy, and AIDS. Tanabe et al. developed the Japanese version of ISMI measure and examined the validity and reliability of the Japanese version. The paper was published in BMC Psychiatry in 2016.

研究分野：精神看護学

キーワード：日本語版ISMI 内面化したスティグマ 精神障がい者 メンタルヘルス 検証研究 精神測定

1. 研究開始当初の背景

精神疾患に関連しているスティグマ意識は、精神疾患自体のメンタルヘルスの負担を増大する。そして、スティグマは個人個人の社会的地位、社会的ネットワーク、自尊心を侵食することによって回復を妨げる。このように、精神障がい者に対するスティグマは深刻な社会問題の一つであり、スティグマ研究は数多くある。現在、諸外国のものとして、学問的記述の中で最も一般的にスティグマの尺度として用いられているものは、精神病に関して一般市民の態度や認知度を測定・評価する Link の「価値低落-差別スケール」(1991)や Wahl の「スティグマと差別の過去の経験」(1999)の尺度がある。また、Link は精神障がい者に対するスティグマ尺度として「スティグマ-引きこもり尺度」(2001)を開発した。それは、精神疾患の有無にかかわらず、回答者自身が拒絶を避ける方法として、引きこもりを是認する程度を測定する尺度である。これらは、公的スティグマの評価尺度である。それらに対し、評価尺度の質問項目が仮定の状況を含まず、現在の状況に言及し、精神疾患をもつ回答者自身の自己のアイデンティティや経験に焦点をあてた自己スティグマの評価尺度は「Internalized Stigma of Mental Illness (ISMI) scale」だけである。

日本のものとしては、精神障害者福祉基盤研究会が開発した、一般市民対象の精神障害(者)に対する一般市民のイメージを測定する「精神障害者に対する態度尺度」(1984)や町沢静夫らが開発した精神障害に対する偏見度を測定する「精神障害偏見尺度」(1990)、蓮井千恵子らが翻訳した Link の「スティグマ-引きこもり尺度」日本語版(1999)⁷⁾がある。さらに、久留米大学精神神経科で開発した、一般市民を対象にした精神障害者との社会的距離を測定する「社会的距離尺度」がある。しかし、精神障がい者の内面化したスティグマ(自己スティグマ)を測定する日本語版の尺度は存在しない。

2003年に Jennifer Boyd Ritsher らが、精神障がい者自身のスティグマである内面化したスティグマを測定するために、「Internalized Stigma of Mental Illness (ISMI) scale: 精神障がい者の内面化したスティグマ尺度」を開発した。ISMI scale は内面化したスティグマを測定できる尺度の1つであり、29の項目で構成されている。この ISMI scale は諸外国で数多く翻訳され、世界で標準的に使われている。しかし、精神障がい者に対する内面化したスティグマを測定する一般的な尺度である、ISMI scale は日本において翻訳されていない。

2. 研究の目的

今回の研究目的は、諸外国で数多く翻訳されている「Internalized Stigma of Mental Illness (ISMI) scale」の日本語版を作成し、

その信頼性・妥当性を検討することである。

日本語版 ISMI 尺度ができれば、スティグマを客観的に捉えることができ、精神に障がいのある人のリカバリーの一助になると考える。そのため、できた日本語版 ISMI 尺度は社会に広く普及したい。

3. 研究の方法

(1) 対象者と手順

この調査参加者は206名で、2012年1月～2012年7月の間、群馬県内8か所および新潟県内13か所の社会福祉施設を利用している精神に障がいのある人である。206名のうち、194名が参加に同意した。知的障害、器質性脳疾患、質問を完了することができなかった人を除き、173名を分析の対象とした。

参加者には研究の目的や方法などが書かれた説明書を配付して説明し、同意書を配布し、同意の得られた人に調査を行った。研究計画書は、桐生大学の倫理審査委員会によって承認された。

再テストは調査から56日～118日(平均83.1日)後に、研究の目的や方法などが書かれた説明書を配付して説明し、同意書で同意の得られた55名に対して行い、51名を分析対象とした。

(2) 測定

① Internalized Stigma of Mental Illness scale (ISMI 尺度)

ISMI 尺度は29項目あり、5つの下位尺度からなる。下位尺度は疎外感(6項目)、固定観念の是認(7項目)、差別体験(5項目)、社会的引きこもり(6項目)およびスティグマ抵抗(5項目)である。

項目は4ポイントのリッカート尺度で評定され、「1: 全くそう思わない」から「4: 非常にそう思う」までの範囲に及んでいる。スティグマ抵抗項目は、逆コード化されているので、妥当性のチェックとしても機能しており、5から評価点を引いたものが得点となる。ISMI 合計点数の高い得点は、その個人において内面化しているスティグマ形成が、よりきついことを示す。

日本語版 ISMI 尺度はオリジナル(英語版)の著者である Ritsher JB とトランスレーションとバックトランスレーションを繰り返し、最終的に承認を得た。

② 外的妥当性

・ベックの抑うつ評価尺度(BDI)

日本でも一般的に使われているベックの抑うつ評価尺度(BDI)は、21項目からなる抑うつ症状を測定する主観的自己評価尺度である。各項目を0(なし)から3(重度)点で評価し、合計点は0から63点になり、合計点数の大きさと抑うつ症状の重症度を評価することができる。

・ローゼンバーグの自尊心尺度(RSES)

自尊心は、ローゼンバーグの自尊心尺度 (RSES) を用いて測定した。RSES は 4 ポイントのリッカート尺度で評定され、「1: 強くそう思わない」から「4: 強くそう思う」までの範囲に及んでいる。合計点は 4 から 40 点になり、より高い点数は、より高いレベルの自尊心につながる。日本語版の信頼性と妥当性の検証は、内田知宏らによってなされた。

・エンパワメント尺度 (ES)

エンパワメントとは、自分自身の生活や自分がおかれた生活環境・社会に対する力をもつということである。内面化したスティグマとは対極にある「意欲的な態度」である。Rogers らのエンパワメント尺度 (ES) は、精神障がい者のために作られた、エンパワメントの心理的側面を評価するための自記式尺度である。28 項目の質問に対し、「1: まったくそのとおりだ」から「4: まったく違う」までの 4 ポイントのリッカート尺度で評定される。合計点は 28 から 112 点になり、より高い点数は、より高いレベルのエンパワメントにつながる。日本語版の信頼性と妥当性の検証は、畑哲信らによってなされた。

(3) データ解析

尺度の信頼性はクロンバックの α 係数の算出による内的整合性の検討と、合計得点間の相関を Pearson の相関係数の算出による再テスト信頼性の検討によって信頼性の検証を行った。尺度の妥当性は基準関連妥当性と構成概念妥当性によって行った。基準関連妥当性は、ISMI 尺度とベックの抑うつ評価尺度 (BDI)、ローゼンバーグの自尊心尺度 (RSES)、そしてエンパワメント尺度 (ES) との相関によって検証した。構成概念妥当性については、スティグマ抵抗下位尺度を除いた 4 つの下位尺度について、最尤法によるプロマックス回転で因子分析を行った。

4. 研究成果

(1) 日本語版「精神障がい者の内面化したスティグマ尺度」

① 記入にあたって

このアンケートにおいて、「精神疾患」という言葉を使用しておりますが、あなたがもっと好ましく感じる言葉があれば、それに置き換えて考えてみてください。

それぞれの質問に対して、(1) 全くそう思わない、(2) そう思わない、(3) そう思う、(4) 非常にそう思う、のどれかを選んで、文章の右にある数字のうち 1 つを「○」で囲んでください。

② 項目

1. 私は精神疾患にかかっているため、世の中から除外されているように感じる。
2. 精神疾患の人は暴力的になりがちである。
3. 私が精神疾患なので、人々は私を差別する。
4. 私は拒絶されないために、精神疾患ではない人と親しくなるのを避ける。
5. 私は精神疾患であることをとまどったり、または恥じたりしている。
6. 精神疾患の人は結婚すべきではない。
7. 精神疾患をもった人は、社会に重要な貢献をする。
8. 精神疾患ではない人に、私は劣等感を感じる。
9. 私が精神疾患であるため、「気味悪く」見えるか、または振る舞うかもしれないので、以前ほど社会的ではない。
10. 精神疾患をもった人は、リッパな、価値のある人生を送ることはできない。
11. 私が精神疾患であることで、他の人に負担をかけたくないので、私は自分自身についてあまり話さない。
12. 精神疾患に対する社会一般で通用している否定的な思い込みが、「正常」な世界から私を孤立させている。
13. 精神疾患ではない人といくと、場違いとか、または不適格だと自分自身で感じてしまう。
14. 私は、明らかに精神的に病んでいる誰かと一緒に、おおぜいの前で見られることを心地よく感じる。
15. 私が精神疾患なので、しばしば人は私に恩着せがましい態度をとるか、あるいは私を子供扱いする。
16. 精神疾患であるため、私は自分自身に失望している。
17. 精神疾患があることで、私の人生はダメにさせられた。
18. 人は私の外見から、私が精神疾患にかかっていると、見分けることができる。
19. 私は精神疾患なので、他の人に、私のためのほとんどのことを決定してもらう必要がある。
20. 家族や友達をとまどいから守るために、私は交流の場から遠のいている。
21. 精神疾患ではない人は、どうしても私を理解できない。
22. 私が精神疾患なので、人は私を無視するか、私をそれほど真剣には受け止めない。
23. 私は精神疾患なので、社会に何らかの貢献をすることはできない。
24. 精神疾患でありながら、生きていくことは、私をたくましく困難を切り抜けていく人に行っている。
25. 私が精神疾患なので、私に近づくことに、誰も興味をもたないだろう。
26. おおざっぱに言うと、私がやりたいように、自分の人生を生きることができる。
27. 精神疾患にもかかわらず、私はすぐれた満ち足りた人生を送ることができる。
28. 私が精神疾患なので、他の人は私が人生で何かを達成することはできないと思っている。
29. 精神疾患に対する、社会一般の型にはまった思い込みは、私にもあてはまる。

(2) 検証結果

① ISMI 合計点数

5 つの下位尺度の平均得点と標準偏差 (SD) は得られた: 疎外、2.35 (SD = 0.63); 固定観念是認 (2.10 (SD = 0.48)); 差別経験 (2.25 (SD = 0.60)); 引きこもり (2.27 (SD = 0.56)); そして、スティグマ抵抗、2.75 (SD = 0.48)。ISMI の平均合計点数と性別、住所、

教育期間、婚姻、同居、施設の利用期間との間で有意な差はなかった。自己申告による診断も有意な差はなかった。

②信頼性

・内的整合性

全体のスケールの内的整合性のアルファ係数は、0.91 であった。日本語版 ISMI 下位尺度の内的整合性の α 係数は 0.57 から 0.81 の間である。最も低い係数はスティグマ抵抗下位尺度であり、0.57 である。

・再テスト信頼性

優位な相関は、すべての下位尺度得点で見つかった；合計点： $r = 0.85$ ($P < 0.01$)、疎外感： $r = 0.83$ ($P < 0.01$)、固定観念の是認： $r = 0.79$ ($P < 0.01$)、差別体験： $r = 0.79$ ($P < 0.01$)、社会的引きこもり： $r = 0.73$ ($P < 0.01$)、スティグマ抵抗： $r = 0.71$ ($P < 0.01$) であった。

③妥当性

・基準関連妥当性

ISMI 下位尺度は BDI と正の相関関係があり、RSES、ES とは負の相関関係がある。ISMI 合計得点は BDI ($r = 0.61$, $P < 0.01$)、RSES ($r = -0.53$, $P < 0.01$) と ES ($r = -0.52$, $P < 0.01$) と相関していた。ISMI 得点とその他の 3 つのスケール得点間の相関関係のすべてにおいて有意差があった ($P < 0.01$)。

・構成概念妥当性

4 つの因子が得られた。最初の因子は社会的引きこもりの項目をほとんど含んだ。2 番目の因子は疎外感と固定観念の是認の項目を含み、疎外感の方が高い負荷を示した。3 番目の因子は差別体験の項目をほとんど含み、4 番目の因子は固定観念の是認の項目を含んでいた。

④まとめ

全体的に見て、この研究の調査結果は信頼性・妥当性においてオリジナル英語版の調査結果と同じ程度の結果が得られた。このことは日本語版 ISMI 尺度の信頼性と妥当性を支持し、日本における精神障がい者の内面化したスティグマを測定するために、日本語版 ISMI 尺度が信頼性と妥当性を備えており、有効なツールとして使用できるであろう。

今後は、この尺度が日本の臨床医や研究者によって使われ、精神障がい者の理解が進むことが望まれる

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

Tanabe Y, Hayashi K, Ideno Y. The Internalized Stigma of Mental Illness (ISMI) scale: validation of the Japanese version. BMC Psychiatry. 2016 Apr 29. doi: 10.1186/s12888-016-0825-6.

〔学会発表〕(計 1 件)

田邊要補, 日本語版「内面化した精神障がい者のスティグマ尺度」の信頼性と妥当性, 日本精神保健看護学会 第 23 回学術集会, 2013 年 6 月 16 日, 京都テルサ.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田邊 要補 (TANABE YOSUKE)

高崎健康福祉大学・保健医療学部・准教授

研究者番号：50515319